

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和6年度第3回相模原市立図書館協議会		
事務局 (担当課)		相模原市立図書館 電話：042-754-3604 (直通)		
開催日時		令和6年11月28日(木) 午後6時30分～7時30分		
開催場所		相模原市立図書館 2階 中集会室		
出席者	委員	7人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	9人(図書館長、相模大野図書館長事務取扱、橋本図書館長、他6人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 議題 令和5年度図書館事業評価について 2 その他		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

1 議題

令和5年度図書館事業評価について

(大谷会長) 今回は日程の調整がなかなか難しく、本来、評価を確定させるということですから、10名揃って行いたいと思っていましたが、10名の委員のみなさまには、総評案については事前にご覧いただいたということで、全体の結論として審議していきたいと思えます。

では、本日の議事、令和5年度図書館事業評価ということですが、事務局から資料についてご説明いただいた後で、総評を決定するというところで進めていきましょう。

事務局から説明

(大谷会長) 説明ありがとうございます。それでは資料1の27ページに、私の方で外部評価の素案を用意させていただきました。総合評価につきましては、昨年度もCでしたが、今年度もCとさせていただきます。「成果は得られたが、改善の余地がある」、という段階評価になります。

今でもコロナの問題はあるにはあるが、社会的混乱としてはだいぶ治まってきているのかな、と。ただ、ある部分については、私たちの生活のかなりの部分も大きく変わってしまっていて、なかなかそのなかで図書館としてどうあるべきかは、模索しなければならない時期なのかなと思います。

いずれにせよ、コロナの混乱から立ち直ってきたことについては評価したい。これは複数の委員の方からも評価がありましたので、冒頭に明記させていただきました。

一方、成果指標の達成状況については、達成が一つだけではないか、という意見がありまして、それに関しては私も同意見です。内部評価の55点・B評価の内訳につきましては、取組は40点満点、ただし成果指標の達成は一つだけなので15点。これは実は昨年と同じです。そのところ、昨年度、私たちとしてはもう少し達成状況の改善が必要だろうということでCにしたという経過があります。

総評の本文については、最初の段落としては、手続きとして確認が必要だろうということで、図書館が内部評価を適切に行っているというこ

とを私たちはちゃんと確認したということを書いています。

先ほど言った通り、よかったこととしては、コロナの状況からの回復基調にあるということと、「くるくるとしょかん」につきましては、昨年度も今年度も、ほかの委員のみなさんも私も、肯定的な評価をされていて、それは、このように特記事項とさせていただきます。

問題は、内部評価と外部評価が2年連続で乖離しているものですから、その説明を書かせていただきました。

得点のメカニズムを説明したうえで、内部評価はこうなっているけれど、成果指標の達成状況に課題があるので、外部評価は内部評価と同じBにはならないよということを書かせていただきました。その理屈としては、達成が、10個のうち1つというのは厳しいのではないかということとCとしました。

4段落目で、改めて令和4年度と5年度の達成状況を確認してみました。5年度は4年度と比較して、微減が5項目、微増が4項目、「一般向け講座・講演会等の参加者数」が大幅増で前年比約120%。実はこの状況は、前の年から比べると悪くもないのだが、基本計画と比べるとよくないよねというのが、去年と同じ状況です。

つまり、去年の「問題がある」かなという状況と、今年の状況が改善されずに変わっていないかなど。問題が固定化しているわけです。

一方で、基本的には、図書館の取組に対しては、委員の意見もそうですし、満足度調査を見ても利用者は肯定的で満足度はそれほど悪くない。図書館に来てみると、図書館員のみなさんにはベストを尽くしていただいているな、と。

総合しての所見として、協議会として何をどう打ち出すかということになりますが、私の原案としては、図書館は与えられた条件の中では最善は尽くしているものの、現状の予算・施設・職員数といった基本的な資源の不足が原因となって、COVID-19の影響もあり、基本計画策定時と比較すると、成果指標の達成が低調になっていると考えるべきであろう、と。

なお、私も図書館情報学を専門としておりますが、さまざまな利用に関する要因の先行研究の結果を見ると、特に貸出しに影響を与えるのは蔵書規模であると言われておりまして、資料という施設要素が重要であるというのは事実として先行研究では言われております。やはり、快適さや利便性を備えた施設で、新着資料が書架の中で目立つようになっていないと、多様な利用者を長い時間、リピーターとしてひきつけるのは難しく、成果指標の達成については、図書館にさらなるリソースの投入

が、やはりそれが達成するための必要条件、前提として必要条件ではないか、と、ここをちょっと強く書かせていただきました。これがあれば達成できるという十分条件ではなく、必要条件である、という強い指摘をさせていただきます。

協議会としては一定の成果は認めるが、総合評価については（１）の通り定めた、ということです。

また、資料編には各委員の多方面の意見が寄せられており、参考にさせていただければ幸いであるという旨、一文付け加えさせていただきました。

私の方の外部評価の原案は以上ですが、そもそもこの原案の中身、表現、何を言っているかわからないとか、確認したいとかがあるかと思えますので、委員のみなさまからご意見をちょうだいできればと思います。

（渥美委員） 3段落目から始まる、かなり具体的なところなのですが、点数のところを詳しく教えてほしいのですが。

（大谷会長） 厳密に言えば、これは、図書館事業評価の2ページ目の話なんですよ。ちょっとこれをこの枠の中に収めるようにこの説明を、ということで、55点の内訳を要約したということになります。

まず、100点満点のうち60点が成果指標の達成項目ということになります。成果指標10項目のうち、まったくどれも満たしていないと0点、以下、1から4項目達成だと15点、5から7だと30点というようになっていて、今回の場合、1項目達成なので60点分の15点ということになります

施策の取組状況に、これも詳しくは内部評価の方、18ページのところにいろいろ書いてあるんですが、施策の方向というところが40点分になります。

これで、さきほどの15点と40点で55点になりますが、2ページの基準に照らすと、50点から79点は「B」ということになる、ということで理解して書いたんですが、事務局、その通りでいいですか。

（事務局） その通りです。

（大谷会長） この内容を全て正確に記載すると紙面に収まらないので、3段落目には結果だけを書いています。

（渥美委員） わかりました。ありがとうございます。

（大谷会長） 他にいかがでしょうか。

（渥美委員） 基本的な質問なんですが、内部評価と外部評価で、使っている物差しは同じということなんですか。物差しは同じだが点は違うということですか。

(大谷会長) いや、物差しとしては違います。内部評価はこういうスコアを算出して、スコアを評価ゾーンに当てはめるということになります。外部評価は、3ページに説明がありますが、その「内部評価の段階評価が妥当か協議し」外部評価する、と。ここなんです。昨年度と今年度は、これに関しては、協議会側は、Cとした、と。

(渥美委員) 会長が外部評価で基準としている、配点60点とか40点の物差しは内部評価と同じですよ。

(大谷会長) あ、それは全部、内部評価のことです。

(渥美委員) 結論は違うけれど物差しは同じ、ということですか。

(大谷会長) いえ、外部評価の3段落目では内部評価の話をやっつけて、最後の一文のみが外部評価の指摘で、成果指標の達成状況それ自体をどうなんだろうかと。計算に従えば、55点だから手続きとしてはB評価なんだけれど、そもそも話、たくさん達成するのが望ましい成果指標が一つしか達成できていない状況、しかもそれが続いているというのがどうなのだろうかと、ということで外部評価としてはCになっている、ということです。

でも、もちろんみなさんが、いやいやBでしょう、というのなら、Bということもあるかもしれませんが。

(渥美委員) 5段落目の「図書館に関する先行研究では・・・」というところは、これは私からすると、非常に新たな視点で、行政とは異なる視点、外部としての指標というか、まったく違う発想ということを感じまして、行政の資料を読み込むという考え方と、外部からの全く違う視点からの指標、ということで質問させていただいたんですが。

(大谷会長) そうですね、内部評価を見て外部評価を行うという形をとっていますので、理屈として、外部評価は内部評価のロジックに従う必要はない、と考えています。

ただ、内部評価が適切に行われている以上、事実はその通りだと受け止めて、事実を精査しなければならない、そのうえで、我々は全員、それぞれ違う立場で参画していますので、どのように受け止めるのかというのが、その受け止めの総意が、このABC・・・外部評価になると思っています。

(小山副会長) 27ページの外部評価の中で、冒頭で渥美委員が指摘された3段落目が、私の理解としては図書館の方々が行った評価に対してCにしましたよ、内部評価のBとは違いますよ、ということの理由を述べているところだと考えます。それ以外の部分は、なぜそうなったのかということが様々な視点が書かれている、そういう構成になっているので、私とし

ては・・・私も総合評価Cでいいと思っていますが、十分説明ができていないのではないかな、と、僭越ながら、そういう感想を持ちました。

(大谷会長) 1ページにまとめるために、若干3段落目の、外部評価がなぜこうなったかの説明がそっけないかなと。その分、4・5段落目にこれに至った経緯を書いているが、分かりづらいと言われたらその通りかもしれない。

(小山副会長) もしかしたら、最初の方には4・5段落目に書いたことを書いて、C評価になった理由を、内部評価と異なっていることを、なお書きで、書くというのでもいいかもしれません、これは思い付きですけど。

(大谷会長) 確かにおっしゃる通り、そのへんのロジックについてもっとわかりやすく書いた方がいいかもしれない。

それぞれの要素についても、もっと違う見解があると思いますが、有識者枠として、もろもろの状況を踏まえると、取組がダメとは思わないし、内部評価のやり方に従えばそういう結果が出るのもわかる。ただ、現実問題で達成状況が悪いとなると、手放しでよいとは言えない。

職員の努力が足りないのではなく、リソースが足りないということ、これでは、戦力が足りないのにプロスポーツ選手として優勝しろと言われていたようなものなのではないかなと。与えられた戦力に対して、期待されるパフォーマンスを考えるとというのでないとキツイのかなと感じているのが正直なところです。

ということでややキツく、必要条件だ、と、このように書いたが、いや、がんばっているんだから違うとか、みなさん、いろいろご意見あると思いますので、コメントとかいただけたら。

(渡辺(晃)委員) 内容的にはすごくよくわかってきました。必要条件とありますし、継続していくためのものですから、理想もあるが、現実もあるものですし、最後に「多方面への意見が寄せられており」とも書いてあるので、いい感じにまとまっているというふうに私は感じました。

(渡部委員) 私も、はい、いいんじゃないかなと思います。去年も「C」で、あぁって思って、今年も同じように思ったけれど、読んでいくとそうだなあ、と。今、会長がおっしゃった、これだけの戦力で優勝を目指さないというお話は、もしかしたら今の成果指標の目標が、優勝を目指す指標なのかなと。本市は「ちょうどいいまち」というのを標榜しているじゃないですか。だから、もっとちょうどいい指標があってもいいのかなと思うんですね。私も校長会で、横浜行ったり、川崎行ったりしますけれど、もう、全然スケールが違うんですね。ドカーンとでっかいところに何百人も集まっていて、うちではこんなのできないな、なんて。

でも、うちの市なりの良さというのがあるんじゃないかなど。そういうのがにじみ出るようなPDCAを繰り返していく方がいいんじゃないかと・・・いつまでたっても横浜に勝てないとかじゃなくて、別に、戦っているんじゃないんですから。ぼんやりとした感想ですけど、そんなことを感じました。

(大谷会長) やっぱり、理想として高い目標ということは大事ですけど、いつもいつも、ワールドレコード狙いましょうというのは現実的ではないじゃないですか。例えば、下位カテゴリーで活動している高校生くらいの子どもに、ワールドレコード目指そうじゃなくて、確実にまずは標準タイム、地区レコードを狙っていこうとか、それが達成できたら、さらに要素を整えばもっと上を狙っていこうとか、そういう、こう、もう少し刻んでいくというか、確実に改善していくというプロセスも大事ではないかと。このままだと、改善されているのか、されていないのかも、これだけ見ているとわからないというか。成果指標は基本計画で定めているものですので、いきなり勝手に変えるというのは難しいかもしれませんが、少し見直しとか考えて、その上で、図書館として、きちんとがんばればある程度最低限達成できるという成果目標を再構築して、もちろんハードルを下げろという意味ではなくて、プラスアルファもうちょっと考えれば達成できる、そういう指標を考えていただく。それで確実に改善ができるのではないかと。でも、やっぱり施設面は大きいので、築50年の施設で利用者を引き込める要素には限界があるというのも事実です。そういうのを踏まえながら、考えていくのもいいのかなど。

私、いつも辛い評価で、自分でも心が痛いんですけど、改善してほしいから書いているので、関係者が合意しているのなら、変えてもいいのかなど。ただ、評価としては、やっぱり一旦はきちんと言った方がいいのかなと思っています。

(佐藤委員) みなさんの話を聞いて総合評価のC評価、妥当だと思いました。成果はもちろん得られている、でも改善の余地はあり、現在取り組んでいるということだと思いました。

私が評価をさせていただいてとてもよいと思っているのが、アウトリーチというか、いろんなところに出向いていただいたりとか、「くるくるとしょかん」とかの形で、本に触れる機会を設けていただいている、温かきがあることができていいる部分は成果だと思います。でも、もちろんもっと図書館としてこんなふうな、という希望を持っているというのもありますので、まったくオーケーのBではなく、Cは妥当だと思いました。

(末永委員) 私も総合評価はCでいいと思いました。成果は得られたが、改善はあると思いますので。

(大谷会長) では、報告の読み方として、評価に乖離が生じていることと、内部評価と外部評価がなぜ違うのかということをもう少しわかりやすく考えるということでもよろしいでしょうか。中身はみなさん、原則これでもいいのではないかとお認めいただいたということで。

これは、何日までに仕上げたいですか。

(事務局) 教育委員会の定例会は12月26日を予定しております。その前に庁内的な資料調整等がありますので、12月第2週、平日としては12月6日まで、このあたりが一つの目安になるかと思います。

(大谷会長) では、私の方で調整して、来週あたりには、委員のみなさんにお返しして確認していただきたいと思います。基本的にはこの内容でお認めいただいたということで大幅な修正はありませんが、それ以外の文章の体裁とか、ロジックのつなげ方を手直しして来週お渡しして、メールでご確認いただいたもので教育委員会の方にかけてもらう、我々の協議会の外部評価の確定版として提出、ということでもよろしいでしょうか。

(事務局) 大変僭越なのですが、みなさんにコメント、講評いただいております。みなさんの的確に評価していただいて、大変ありがたいと感じました。我々に対する期待感を強くお持ちということを感じましたので、その部分を外部評価の中で、例えば今後の取組に期待するというようなことを書いていただけるとありがたい。

(大谷会長) どこまで期待に沿えるかはわからないが、取組自体は、職員の取組に対して協議会で否定的なことを言っていたことはありません。ただし、いかんせんパフォーマンスを出すためのリソースに難があるなど言っている。取組はしていただけていると思っているし、していただけたと思っています。

これから出張で連絡が取りにくくなるけれど、6日あたりにみなさんに送れることになると思います。

(小山副会長) では、今のお話を踏まえていいですか。3点ありまして、一つ目は、会長に見直しいただけてみんなでメールで確認しようというのは、今回、出席委員も少ないので適切な方法だと思います、ということ。

二つ目に、「期待する」という言葉を入れるとして、三段落目をもっと短くしてもいいのかなど。渥美委員のご発言にもあったように、内部評価がここに持ち込まれているという印象を与えるよりは、内部評価と外部評価が異なっている理由についての説明を一言入れればいいのかなど。

三つ目は、ちょうどした案について、言葉がちょっとこうしたほうがいいということを感じたところがありますが、そのメールの時の確認でもいいですか、これは質問ですが。

(大谷会長) 予めわかっていることだったら先にお知らせいただくと助かります。もちろん、メールでの確認の中でご指摘いただいて、それを受け入れて修正することも前提だと思っています。

では、表現については議事で出された形で手直しし、形式上は事務局と会長一任ですが、みなさんにもメールでご確認をお願いしたいと思います。やはり欠席の方も多いので。それでは会議としては、これでお認めいただいたということでよいでしょうか。(全員総意の声あり)

(大谷会長) では、こういうかたちということでまとめさせていただきます。ありがとうございました。

予定された議題はここまでで。その他、何か審議としてはこれはというものが無いということでしたら、あとは連絡事項ということで。

(事務局) 何か連絡事項ありましたら。

(渥美委員) 私事ですが、この前の日曜日に「図書館と市民をつなぐ会」と図書館の共催で「図書館ひろば」という事業を開催しました。そこで開催した古本市についてお話をさせていただきたいのですが、市民の方から約5700冊の本を寄付していただいて、そのうち約1600冊、四分の一は持って行っていただいた。トレンドとして、図書館には、これだけの本を集める力があると感じた。ただ、この古本をどうするかということで、課題を感じていて、残った古本を、どうしようかと。例えば公民館とか学校のネットワークがあるのかなど。何か先生方からアドバイスいただけたら。

(大谷会長) イベントそのものではなくて、古書についてということですね。

(小山副会長) 渥美委員の意図は、最終的には、その残った古書の取扱いについて、ヒントがあれば、ということですかね。

(渥美委員) 今、本がたくさんあるので、一ボランティア団体では抱えきれないので、お知恵が欲しいと思っています。

(小山副会長) 基本的な確認ですが、「図書館ひろば」では、持ち寄っていただいた目的は売ることを目的にしたもの、それとも、リサイクルを目指したものですか。

(渥美委員) リサイクルです。

(小山副会長) そうであるのなら、それをどう使うのが課題で、こうしてはダメという、市として、モノをどうしてとらえているのがというのがまずあって、例えば単純に、第二弾をやればいいのか、公民館ネットワーク

など、ここに来られない人もいるので持っていく、もちろん持っていくのにもお金がかかりますけど。

でも、パッと思いついたのは「チャリボン」。「本で寄付するチャリボン」という団体に持っていくと、売ってくれて、得たお金を目的別に使うということもできます。

(大谷会長) 図書館が売って図書館に寄付ということはできなくても、友の会とか、ボランティア団体の活動としてさばくとしたら、その金額を図書館に寄付するとかそういうこともできるかもしれませんね。

(渥美会長) ありがとうございます。

(事務局) 他にありますか。

(小山副会長) 一ついいですか、図書館は、いつ50周年になったんですか。

(事務局) 令和6年11月20日で開館50周年になりました。

(小山副会長) 50周年おめでとうございます。周年事業って、自治体によっていろいろであると思うけれど、キリのいい50周年ということで相模原はどんなことをするんだろうと、期待していたんだけど、市外に住んでいるということもあって、何をしているのか見えにくい。もっと大々的にやってもよかったんじゃないかなと。こうやって図書館に来てみると、いろいろな展示もしていて楽しいんだけど、図書館へのメッセージを書くところがあって、書きたいと思ったんだけど、どこで書けばいいのかがわからないとか。

あと、年表がありましたけど、周年のあゆみを、冊子を作るかどうかは別として、何かまとめたものを、ホームページにPDFで載せるとか、冊子についてはもっと公式な形としてパブリッシングしていてもいいのではないかなと。これからどうまとめていくか、どうしていく予定なのかを聞いてみたいと思って発言しました。

(事務局) 50周年記念事業にご質問ありがとうございます。図書館では3か月に1回、図書館報として出しているものがありますが、その10月号を50周年記念特集として、その中に、年表もとじ込みまして、ホームページにも掲載しております。それが目立たなかったということだと、何かもっと工夫していけばよかったかもしれません。あと大学生と記念冊子を作っております、完成しましたら、それを市内で配ったりとか、電子書籍として読める形で残していこうとか、そういうことを考えています。

(小山副会長) 図書館報というと、TOMTON? ああ、ホームページを見たらありました。

(事務局) また、10月の後半からですが、図書館の公式Xで、カウントダウン

ポストをしまして、何年には何がありましたとか、イベントの予告などを発信していました。

(小山副会長) それが、みなさんに届いているといいですね。

(事務局) では、事務局からお知らせです。電子書籍に関するクラウドファンディングを行っておりまして、まだ目標額にはほど遠いですが、だいぶ集まってきたところでございます。ふるさと納税のシーズンなので、これからの1～2週間に期待しているところです。子どもたちのための電子書籍を、と、ぜひ委員のみなさまには、この取組を広めていただければと考えています。

(事務局) 本日は外部評価についてご協議いただきありがとうございました。令和5年度分の図書館事業評価につきましても、おかげをもちまして、評価を作成することができました。

今後、いただいた評価を事業に生かすとともに、12月の教育委員会定例会での報告に向けて準備を進めてまいります。

(事務局) 以上で本日の日程は終了いたしましたので、令和6年度第3回相模原市立図書館協議会を閉会いたします。

なお、次回は2月から3月頃の開催を予定しております。令和7年度当初予算の概要や、淵野辺駅南口のまちづくり事業のプランなどについて、ご報告ができる見込みでございます。

本日はありがとうございました

以 上

相模原市立図書館協議会委員出欠席名簿

	役 職	氏 名	所 属 等	出欠席
1	会 長	大谷 康晴	青山学院大学教授	出 席
2	副 会 長	小山 憲司	中央大学教授	出 席
3	委 員	佐藤 玲子	相模原市立小学校長会	出 席
4	〃	渡部 賢一	相模原市立中学校長会	出 席
5	〃	末永 暁子	相模原市公民館連絡協議会	出 席
6	〃	金子 友枝	相模原市社会教育委員会議	欠 席
7	〃	渡辺 晃子	みらい子育てネットさがみはら 連絡協議会	出 席
8	〃	松浦 浩樹	和泉短期大学教授	欠 席
9	〃	渥美 聡一郎	公募	出 席
10	〃	渡辺 裕子	公募	欠 席